

第10回

知恵ビジネス。プランコンテスト

知恵をカタチに、顧客を創造!



知恵産業のまち京都の推進
京都商工会議所



認定プランを決定

「新たな付加価値や、顧客を創造する」プランを集中支援

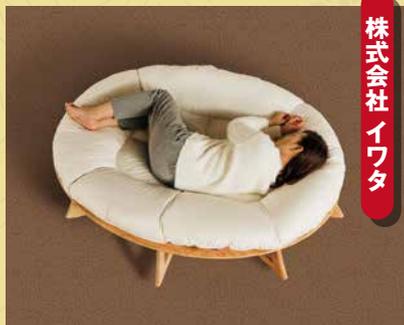
本所は、京都のまちの特性や企業独自の強み、知恵を活用して、新たな付加価値や市場を創造する「知恵ビジネス」を推進しています。「知恵ビジネスプランコンテスト」では、そうした独創性あふれる事業プランの中から、顧客創造を図り、企業価値を高めるものを「知恵ビジネスプラン」として認定しています。

第10回となる今回は、59件の応募があり、独自性やインパクト、実現性などの観点で書面審査、実地調査、ヒアリング審査を重ね、きざりと光る6件の事業プランを認定しました。認定を受けた企業には、本所のコーディネート力やネットワーク力を活かして、経営戦略・マーケティング、広報・プロモート、交流・マッチング、資金調達・補助金申請などに関するさまざまなハンズオン支援を継続的に行い、プランの実現を目指していきます。

ここでは、今回認定されたプランについて、その知恵の使いどころや活かし方などに詳しく紹介します。



株式会社 食一



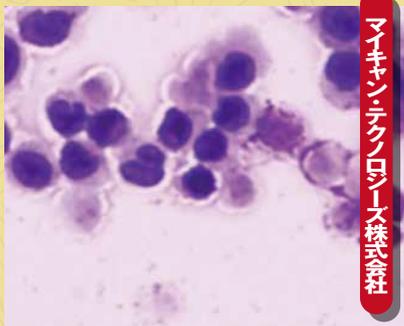
株式会社 イワタ



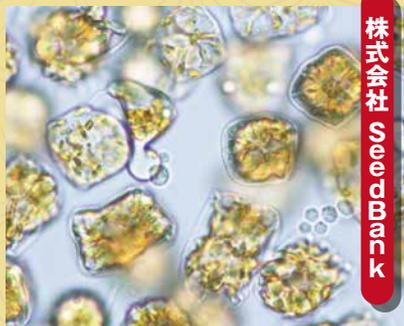
株式会社 寺島保太良商店



株式会社 大西常商店



メイキンテクノロジー株式会社



株式会社 SeedBank

〈知恵ビジネスに関するお問合せ〉
本所 中小企業支援部
知恵産業推進課
TEL:075 - 341 - 9781
E-mail:bmpj @ kyo.or.jp



株式会社 イワタ

【代表者】岩田 有史
 【所在地】京都市中京区柳馬場通御池下ル
 柳八幡町65 京都朝日ビルディング7階
 【電話番号】075-211-8321
 【URL】<http://www.iozon.co.jp/>
 【事業概要】寝具製造卸



創業以来、羽毛や獣毛、麻など天然素材を用いた高付加価値な寝具を提供してきた。特許技術を数多く保有し、キャメルハアの敷き寝具やヤク、ホースなどの毛を積層構造にしたマットレスなど、他では真似できないオリジナル商品を市場に送り出している。

今回、培ってきた技術とノウハウ、さらに大学と連携して霊長類研究の成果を取り入れ、これまでにない快適な寝心地を実現する“人類進化ベッド”を開発した。チンパンジーの寝床研究をもとに、試作を重ねて生まれた楕円形のベッドで、皿のように中心にくぼみのあるマットレス構造と、揺りかごのようにゆらゆら揺れるベッドフレームを組み合わせることで、寝ている人の体をやさしく包み込み、寝返りの回数を抑えること

ができるのが特徴。安心感と高品質な眠りを提供する。

多忙なストレス社会にあって、睡眠の在り方について改めて関心が寄せられている。特に、日本人の平均睡眠時間は欧米諸国に比べて短く、良質な眠りのベースとなる寝装寝具に対するニーズはますます高まりつつある。今後は、これまでの知的財産と研究成果を背景にして、異分野の企業とアライアンスを組むことにより、新たな市場で販路開拓を進めていく。一般家庭の寝室用だけでなく、オフィスでの仮眠・休憩用ベッドとして、アウトドアで楽しめる宿泊・レジャー用ベッドとして、また体位変換が容易に行えることから介護施設等の褥そう防止ベッドとして、多様な需要を取り込んでいくことが考えられるだろう。



撮影：座馬耕一郎
 撮影場所：タンザニアマハレ山塊公園

審査委員長の

龍谷大学 名誉教授
 佐藤 研司



専門メーカーとして付加価値の高い寝具を開発してきた実績を背景に、全く新しいコンセプトのベッドを開発した。チンパンジーの寝床研究から生まれた新形状のベッド「人類進化ベッド」で、就寝用のみならず、アウトドアやオフィスなどの短時間の休息やリラックス・リフレッシュなど、多様な眠りや安らぎのニーズに応えていく提案である。



株式会社 大西常商店

【代表者】大西 久雄
 【所在地】京都市下京区松原通高倉西入ル
 本燈籠町23
 【電話番号】075-351-1156
 【URL】<http://www.ohnishitune.com/>
 【事業概要】京扇子製造卸



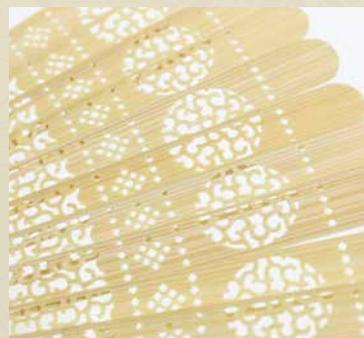
長年にわたって京扇子の製造卸・小売を手がけてきたが、ライフスタイルの変化に伴って市場が縮小し、職人の高齢化や後継者不足も課題となっている。

その一方で、扇子を使うお客様から「扇ぐと良い香りがふわっと漂ってきて心地良い」という声が寄せられることも少なくない。こうしたニーズを積極的にキャッチアップし、扇子が持つ香りや美しさを部屋の中で手軽に楽しめる、現代感覚に合った室内芳香剤「扇ルームフレグランスかざり」を開発した。

一般的な室内芳香剤で見られる棒状のスティックの代わりに、京扇子の職人の手で薄く加工された竹(扇骨)を使っているのが特長で、独特の毛細管現象によって、アロマを効率良く吸収し、香りを長く維持・拡散で

きる。レーザー加工で扇骨にモダンな透かし彫りを施し、扇状に重なり広げたデザインも美しく、インテリア商品としての需要も見込める。香料メーカーと共同で「八重桜」「白檀」「檜」の三種類のオリジナルフレグランスを開発、フレグランスを入れる器も清水焼を採用するなど、「和」のコンセプトにこだわったブランド展開で、商品価値を高めて他との差別化を図っている。

めざましい勢いで市場ニーズが変化していく中、扇子の技術やデザインを活用した現代ニーズに叶う用途開発を行って、自宅用はもちろん、商業施設やホテルなど埋もれた需要の掘り起こしを進めていく。市場での扇子への関心を高めていくことで、京扇子職人の雇用安定や育成につながっていくことが期待される。



審査委員長の

龍谷大学 名誉教授
 佐藤 研司

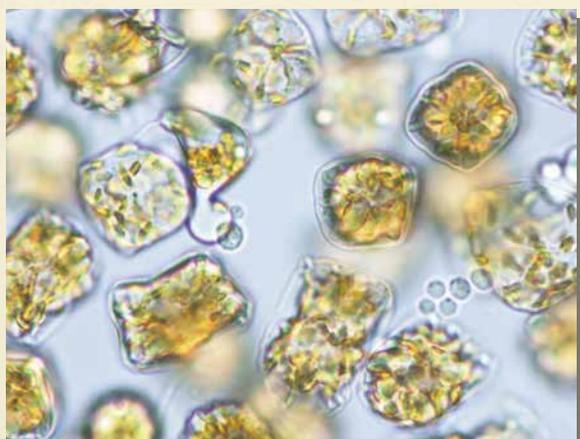


京扇子の技術と特性を生かした新たな商品としてルームフレグランスを開発、販売を行う。扇子用に加工された扇骨に香料を浸すことで、毛細管現象により香りが持続するように施されている。伝統工芸品である京扇子の形を生かすことで、デザイン面での強みも発揮できる。伝統工芸の技術伝承、後継者の育成といった点でも評価できる。



株式会社 SeedBank

【代表者】石井 健一郎
【所在地】京都市左京区北白川西町76-1
【電話番号】075-708-7872
【URL】<https://microalgae-seedbank.com/>
【事業概要】藻類養殖業



微細藻類は自然界に広く生息する微細な生物で、人類に有益な物質を生産する生物として知られている。同社は京都大学発のバイオビジネスベンチャーとして、大学で培われた研究シーズをもとに、様々な環境の中から微細藻類だけを分離し、新たな培養株を創出する技術を蓄積してきた。保存・管理するライブラリーは1000種類以上にのぼり、主な顧客である研究機関のニーズに応じて最適な培養株を提供している。

最近、微細藻類のなかの珪藻類に、DHA や EPA などをはじめ、人間の健康に極めて重要な栄養素であるシリカ(二酸化珪素)を含んでいることが、大変注目を集めている。今後、同社の強みである分離・培養・保存技術を使って有益な培養株を創出し、食品や化

粧品、医薬品、飼料等の原料としてメーカーに提供することで、従来の研究機関だけでなく、産業分野にまで顧客のすそ野を広げ、新たな商品・商材の開発等をバックアップしていく。また、食関連だけでなく、環境やエネルギー分野への活用にも大きな可能性が秘められている。

健康志向の高まりを受け、バイオ産業の市場は2030年までに約200兆円規模に成長すると見込まれている。微細藻類は未発見・未活用の種類が無数に存在し、その有用性も無限に広がっていることから、多くのビジネスチャンスが待っている。今後、有用株の分離・培養・保存技術をさらに磨き上げ、市場の期待に応えることによって新たな付加価値を発信していく。



審査委員長の

龍谷大学 名誉教授
佐藤 研司



近年注目されている微細藻類の研究開発を行うなかで、自然環境の中から独自の微細藻類の分離技術により、顧客の要望に応じた培養株を提案していく。微細藻類が持つ有用な物質にフォーカスし、食品や飼料、創薬、化粧品などの原料としての利用拡大を目指し販路の拡大を図る。社会性、将来性、市場の創造といった意味で期待のできるプランである。



株式会社 食一

【代表者】田中 淳士
 【所在地】京都市下京区大宮通高辻下ル高辻大宮町
 121 カンメン2ビル4階
 【電話番号】075-821-1900
 【URL】<http://www.shokuichi.jp/>
 【事業概要】海産物卸、加工品製造



一般的に市場に並んでいるのは私たちがよく知った魚ばかりだが、実は漁獲量が少ない、見た目が悪いなどの理由であまり流通せず、地元の漁師だけが食べているという旨い魚がたくさんある。同社は、全国100ヶ所以上の漁港・漁師と face to face の信頼関係を構築し、水揚げされたばかりの地魚を産地直送で全国1000店舗以上の飲食店などに直送するサービスを展開してきた。

今回のコンテストでは、これまで培ってきたネットワークとノウハウにより、各産地に埋もれた珍魚を地元漁師の食べ方や、自分たちがお勧めしたい調味を施し、付加価値をプラスした“漁師魚の特産品”としてブランド育成していく取り組みが認められた。調味加工は漁港近くにある各地の加工場と連携しながら、マ

ンボウの塩干や味噌漬、ヌタウナギの南蛮漬などの加工品を、鮮魚の卸先である飲食店を通じて販売を行う。飲食店のノベルティやお土産品として扱ってもらうことで、その店の常連さんの舌を通してその魅力を広く発信し、地魚ファンを増やしていく。お客様である飲食店については店の独自色を打ち出すことで売上向上に貢献でき、仕入先である漁港については今まで見向きもされなかった魚の市場価値を高めることにより、地域の水産業の活性化につながっていくことが期待される。

食文化の変化や漁獲量の減少、漁師の高齢化・後継者不足など日本の水産業を取り巻く環境は年々厳しさを増している。同社は、水産業の活性化に向けてこれからも漁師に寄り添った活動を展開していく。



審査委員長の

龍谷大学 名誉教授
 佐藤 研司



姿が悪いなどの理由で市場に出回ることのない地魚を全国の飲食店に直送するという現行ビジネスの展開として、地魚を加工してギフト品として商品化し、取引のある飲食店で販売しようというプランである。未利用の地魚に商品価値を付加し、漁師にも、飲食店にも利益を配分できる試みとして漁業振興としても評価できる。



純金糸で制作するブランド「絲 tabane」による事業展開



株式会社 寺島保太良商店

【代表者】寺島 大悟
 【所在地】京都市北区紫野西泉堂町65番2
 【電話番号】075-495-7111
 【URL】<http://www.terayasu.com>
 【事業概要】金銀糸製造卸販売



伝統工芸士が手作業で制作する純金糸(純度の高い金箔を用いた金糸)を中心に、刺繍用、組みひも用等の各種金銀糸を提供している。京商の販路開拓支援事業などを活用し、純金刺繍ハンチングやパスポートケースなど新たな商品開発にも力を注いできた。

西陣織の着物や帯、祇園祭など祭りのかざり幕として重用される純金糸だが、一般消費者には馴染みが薄く、その魅力に触れる機会はあまり多くない。そこで、自社独自でジュエリーブランド“絲 tabane”を立ち上げ、国内で唯一製造している刺繍用の太い純金糸を使ったネックレスやブレスレット、ピアス、イヤリングなど多様な商品アイテムとカラーバリエーションを展開。その魅力をより身近に発信しようと考えている。純金糸なら

では上品で華やかな輝きに加え、ジュエリーデザイナーとの協業によるデザインの美しさが特徴で、金糸の束が織りなす光沢感や質感、ボリューム感を五感で楽しむことができる。京都の伝統素材と培ってきたものづくりの技術を掛け合わせ、現代のライフスタイルに合ったプロダクトとして提案することで、社会で活躍する30歳代以上の女性の関心を引き寄せ、市場に埋もれた需要を掘り起こしていく。

今、職人の高齢化や後継者不足などの問題で、日本で純金糸を取り扱う会社は片手で数えるほど減少している。今回のビジネスプランによって、金糸の認知度の向上と、製造に携わる職人技術の維持・継承が図られ、業界そのものの活性化につながっていくことが期待される。



審査委員長の

龍谷大学 名誉教授
佐藤 研司

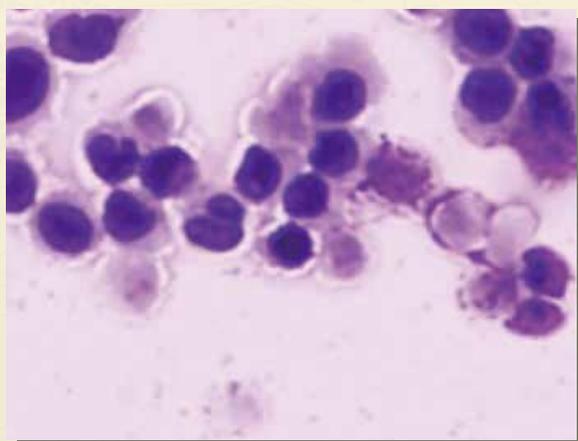


純金箔を用いた金糸は市場が縮小の一途をたどっており、金糸を作る技術継承が難しくなっている。金糸の新市場を開拓するために、素材としての良さを生かした自社ジュエリーブランドとして“絲 tabane”を開発、展開を図る。京都の伝統工芸の知恵を現代生活の中で輝かせるように独自の工夫でジュエリーとして展開したことは評価できる。



マイカン・テクノロジーズ株式会社

【代表者】宮崎 和雄
 【所在地】京都市西京区御陵大原1-36
 京大桂ベンチャープラザ北館206
 【電話番号】075-381-3008
 【URL】<http://www.micanttechnologies.com/>
 【事業概要】研究用細胞製造業

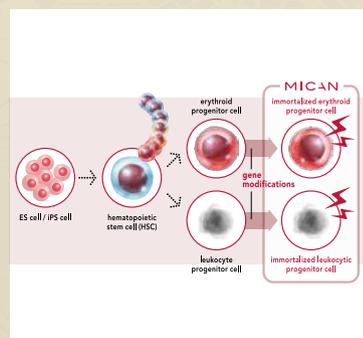


マラリアやデング熱は世界で年間2億人以上が感染するといわれ、WHOなどが撲滅を掲げて活動しているものの、未だ有効な治療法は確立されていない。ヒトの血液には骨(幹細胞)から分化した血球細胞が多く含まれているが、これらの感染症は赤血球や白血球になる前の分化途中の血球にのみ感染し発症する。しかし、幼若な血球細胞は入手が非常に難しく、研究室で培養しても時間がかかる上、品質や再現性も不均一なため、ワクチンなど創薬の研究評価・開発に結びつきにくい。

こうしたニーズに応え、これまで培ってきた再生医療技術を用いて、血球細胞の成長過程を任意にコントロールし、研究者や研究機関、製薬会社等が求めるヒト特殊血球製品を供給、早期の事業化を目指す。まずは、

大学と共同でマラリア研究用の幼若な赤血球細胞キットを開発し、市場テストを繰り返しながら、実用化に向けてさらに製品精度を高めていく。また、デング熱についても他大学と連携し、ヒト生体に近い特殊な白血球細胞を作製。デング熱だけでなく、エボラ出血熱やジカ熱など白血球を媒介とする感染症研究を行う顧客の掘り起こしを目指す。

グローバル化や地球温暖化の影響などにより、感染症の驚異は世界各国に広がりつつある。再生医療技術のノウハウ、技術をさらに磨き上げることで、多様な感染症に対応したサービスを提供することが可能となる。長年ワクチン研究が困難であった分野の研究を加速させる社会性の高いビジネスプランといえる。



審査委員長の

龍谷大学 名誉教授
佐藤 研司



希少性の高い特殊血球や細胞製本を、再生医療技術を使用して研究者や製薬企業に提供しようとするビジネスである。特に、独自ノウハウにより分化途中の幼若な血球にのみ感染・発生する疾患の研究に細胞を安定的に供給できるようにした点が評価できる。まずは、第一段階としてマラリアとデング熱を対象とし、研究用に特化した事業化を目指す。